

(令和8年6月)

種 類	市況の概要
(青果部の動向) 青 果 全 般	6月は台風の通過やそれに伴い線状降水帯が発生した影響で降水量が多く、気温の高い月だった。野菜は冬春産地と夏秋産地の入荷のズレがあり、端境期による単価高の品目が多かった。総取扱数量は前年同月比で4%下回り、総取扱金額は4%上回った。 今後は、産地の切り替わりが本格化する。おおむね生育順調で平年並みの入荷の見込みだが、日中の高温などの影響が懸念される。 7月は、野菜では、枝豆やとうもろこしの入荷が増える。果実では、すいかや桃が最盛期を迎え、巨峰等ぶどうの入荷が始まる。
野 菜	野菜全般の入荷量は前年同月並みで、単価は6%上回った。 根菜類の入荷量、単価はともに前年同月並みだった。 葉菜類の入荷量は前年同月比で7%上回ったが、単価はキャベツなどの需要が高く単価高となり、7%上回った。 果菜類の入荷量は前年同月並みで、単価は10%上回った。 土物類の入荷量は前年同月比で5%下回り、単価は前年同月並みだった。
果 実	果実全般の入荷量は前年同月比で22%下回り、単価は22%上回った。 かんきつ類の入荷量は前年同月比で107%上回り、単価は39%下回った。 りんご類の入荷量は前年同月比で21%下回り、単価は7%上回った。 桜桃類の入荷量は前年同月比で150%上回り、単価は28%下回った。 メロン類の入荷量は前年同月比で26%上回り、単価は前年同月並みだった。 すいか類の入荷量は前年同月比で3%下回り、単価は10%上回った。

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長だいこん	青森、北海道を中心に、福井などからも入荷した。入荷量、単価とも前年同月並みだった。
西洋にんじん	和歌山、長崎、兵庫を中心に、北海道、熊本などからも入荷した。入荷量は前年同月並みで、単価は入荷の端境期となり上旬、下旬に単価高となった影響で8％上回った。
【葉菜類】 はくさい	長野を中心に、群馬などからも入荷した。入荷量は前年同月比で3％下回り、単価は5％上回った。
キャベツ	茨城を中心に、愛知、京都、長野、群馬などからも入荷した。入荷量は前年同月比で9％上回ったが、加工品の需要が高く、単価は30％上回った。
ほうれんそう	茨城、岐阜を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で7％上回り、単価は8％下回った。
レタス	長野を中心に入荷した。入荷量は前進出荷の影響で前年同月比を18％上回り、単価は前年同月並みだった。
【果菜類】 きゅうり	宮崎、滋賀、福岡、高知、京都などからも入荷した。入荷量は前年同月比で6％下回り、単価は6％上回った。

なす	高知を中心に、岡山、京都などからも入荷した。入荷量は前年同月比で４％上回ったが、単価は前年同月並みであった。
とまと	熊本、北海道、福岡を中心に、京都、三重などからも入荷した。入荷量は前年同月比で１２％下回り、単価は２０％上回った。
ピーマン	大分、宮崎、茨城、高知などからも入荷した。入荷量は前年同月比で１６％上回り、単価は１１％下回った。
【土物類】	
ばれいしょ (メイクイン含む)	長崎を中心に、熊本、北海道などからも入荷した。入荷量は前年同月比で１９％下回り、単価は１２％上回った。
たまねぎ	兵庫を中心に入荷した。入荷量は前年同月並みだったが、単価は９％下回った。
【その他野菜】	
青梅	和歌山を中心に奈良、福井から入荷した。入荷量は前年同月比で２０％下回り、単価は１２％上回った。

主要品目（果実）	市況の概況
ハウスみかん	長崎、和歌山、佐賀からも入荷した。入荷量は前年同月比で９％上回り、単価は８％下回った。
富士 （サン富士含む）	青森から入荷した。入荷量は前年同月比で４％下回り、単価は５％上回った。
桜桃	山形を中心に、アメリカ、山梨から入荷した。入荷量は前年同月比で１５０％上回り、単価は２８％下回った。
アールスメロン	静岡、京都、高知などからも入荷した。入荷量、単価とも前年同月並みだった。
大玉すいか	鳥取を中心に、熊本から入荷した。入荷量は前年同月並みだったが、単価は１０％上回った。